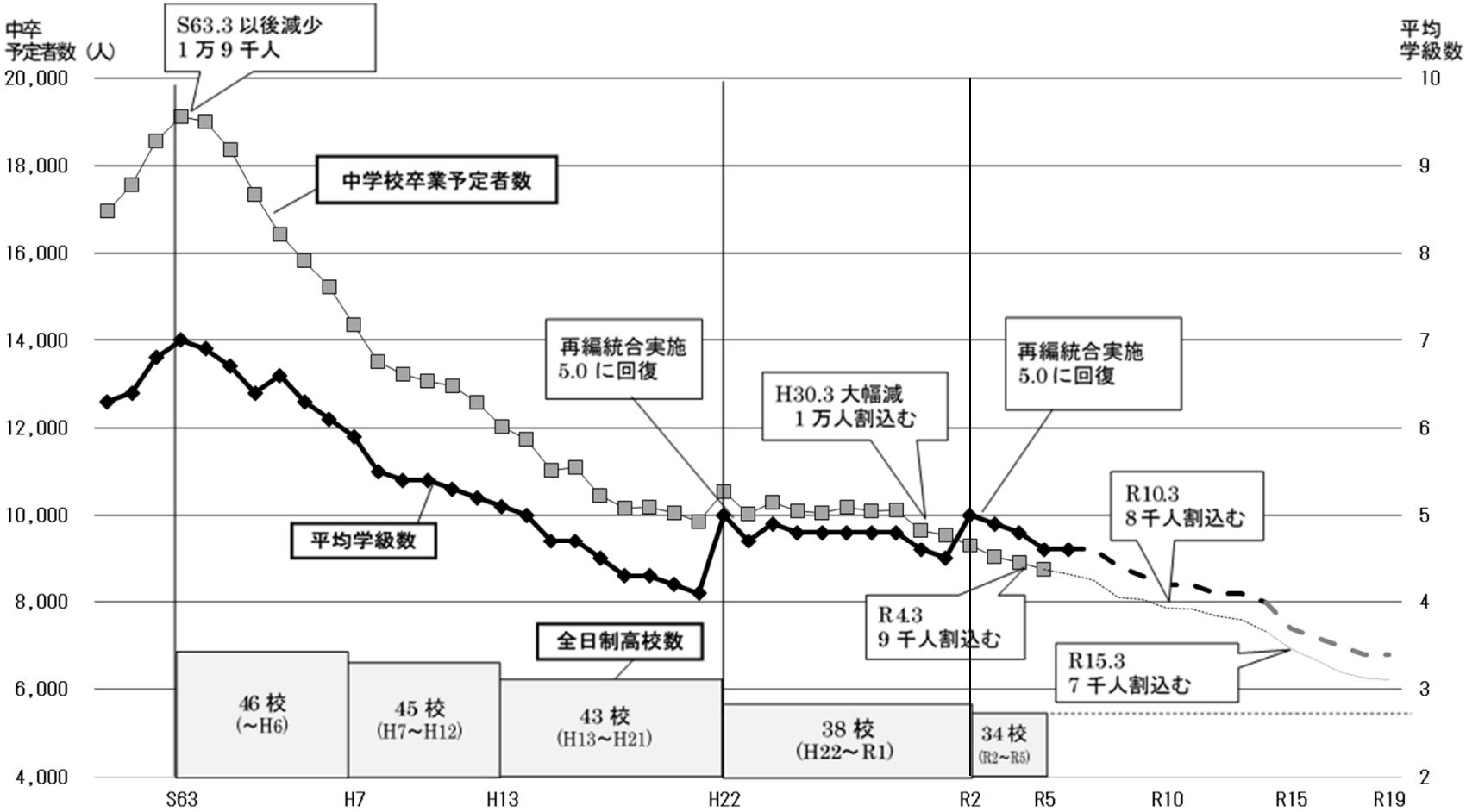
県立高校教育振興に関する
市町村との意見交換会

富山県教育委員会

令和６年１月18日(木)15：45～16：45
富山県防災危機管理センター　５階大会議室

今後の中学校卒業予定者数の推移



※　全日制高校数は1学年を募集している学校数
※　中学校卒業予定者数の算出について、S63年～R14年は学校基本調査(各年5月1日)を基にした生徒数。R15年～R18年は県の人口移動調査(R4年10月1日)に基づく推定値
※　R7年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を70.8%と仮定し、学校数を34校で維持した場合の見込み
※　中学校卒業予定者数は、記録が残るS27の21,176人以降、S38の31,995人が最大数となっている。

今後の県立高校のあり方について

○令和３年８月～令和５年５月
令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会（９回開催）

「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」では、魅力ある高校教育を通した「ウェルビーイングの向上～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～」を基本理念とし、３つの県立高校づくりの目指す姿を掲げ、その実現に向けて、６つの観点から、具体的な方策について取り組むことが必要とされた。

また、「今後の再編計画については、今後も中学校卒業予定者数の大幅な減少が見込まれることから、『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会』や総合教育会議での議論を踏まえ、県立高校の学科等の見直しや高校再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について、令和５年度以降、できるだけ速やかに新しい検討の場を設け、丁寧に検討していく必要がある。」とされた。

※「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」（令和５年５月策定）
https://www.pref.toyama.jp/3003/kurashi/kyouiku/gakkou/arikata/arikata.html

○令和５年６月～現在
県立高校教育振興検討会議

(1) 県立高校の再編に関する学校規模・基準に関すること、(2) 県立高校の学科・コースの見直しに関すること、
(3) 様々なタイプの学校・学科等に関することについて検討。

今年度中に、各検討事項の基本的な方針について提言をとりまとめられる予定

○令和６年度～

総合教育会議

検討会議の提言を受け、知事が主宰する総合教育会議において、再編の基本方針や新しい学科・コースの開設等について検討が進められる予定。

県立高校のあり方に関するアンケート調査結果

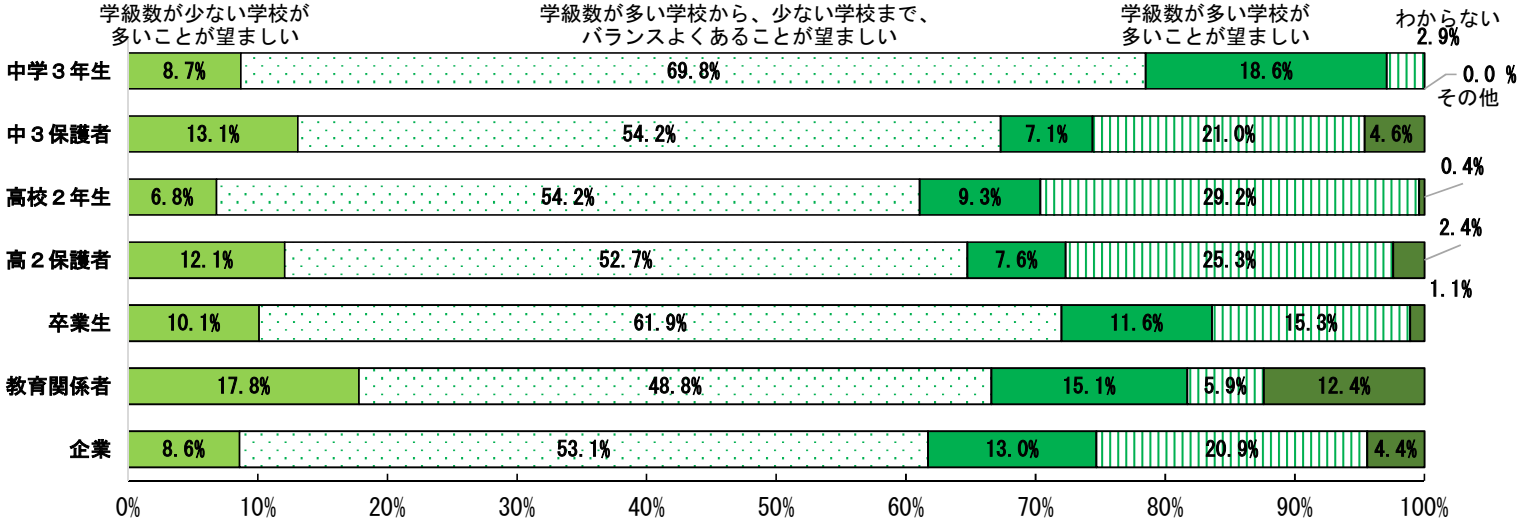
・調査時期：令和４年８月22日(月)～10月７日(金)
・調査対象：中学３年生、中学３年生保護者、高校２年生、高校２年生保護者、卒業生、教育関係者、企業

○「高校選択の際に重視すること」※回答数が多かったもの

（%）

	中学３年生	中３保護者	高校２年生	高２保護者	卒業生
・中学校における自分（お子さん）の成績	52.4	61.5	51.5	58.6	48.7
・自宅からの距離や時間などの通学条件	41.8	58.5	37.6	46.5	41.8
・設置されている学科やコースの学習内容	38.9	48.1	34.2	44.9	34.9
・学校の校風、イメージや伝統	35.1	27.9	17.0	24.0	21.2
・学校行事や部活動の状況	29.9	18.8	20.3	16.1	27.5
・大学などへの進学先や進学者数	24.4	30.2	15.9	19.0	18.0

○「望ましい県全体の高校像」



県立高校配置の方向性の考え方

※第４回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿（素案）」より抜粋

報告書のアンケート調査結果では、「高校選択の際に重視すること」として、「中学校における成績」に次いで「通学条件」や「学科やコースの学習内容」の回答が多かったことから、**様々な学科構成を有する県立高校が県全体において適所に配置されるよう、学科・コースの見直しを含め、多様な視点から検討することが重要**である。

また、「望ましい県全体の高校像」として、「学級数が多い学校から、少ない学校までバランスよくあることが望ましい」の回答が多かったことから、集団の中で多様な考えに触れる機会が多く、様々な種類の科目や部活動等を設置できるため選択の幅が広がりやすい**「中～大規模校」と、**生徒一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい**「小規模校」の双方をバランスよく配置する**ことが望ましいと考えられる。

以上のことから、県立高校は、**生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する**ことが望ましい。また、その実現にあたっては、**生徒が学びたい、学んでよかったと思える魅力ある高校づくりを目指すとともに、社会の変化、産業界のニーズを踏まえた、再編統合や学科・コースの改編に取り組む**ことが望ましい。

県立高校の目指す姿

※第４回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿（素案）」より抜粋

魅力ある高校教育を通した「ウェルビーイング」の向上
～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～

目指す姿

未来を切り拓くことができる、確かな資質・能力を身につける、学びの質の向上

協働的な学びや多様な価値観に触れることができる、生徒の幅広い選択肢の確保

多様化する社会の形成に主体的に関わる力を育成し、社会のニーズを踏まえた教育体制の整備

【令和の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた６つの方向性】

Ⅰ．各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進
Ⅱ．地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みの推進
Ⅲ．ＩＣＴの活用による学びの充実の推進
Ⅳ．グローバルに活躍する生徒の育成の推進
Ⅴ．魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備
Ⅵ．配置や定員、再編・統合等にかかる具体的な検討

学びの改革《とやまの新しい教育の創造》
＋ 新たな学び・多様な学び・未来を拓く学びの場を目指して

【学科構成】

職業系専門学科単独校
・多様な小学科を設置

総合選択制高校
・複数の学科の枠を超えた学びを実践

普通科系高校等
・教科等横断的な学びを実践
・特色ある学びができるコース等を設置
・地域の特性を生かした学びを実践

総合学科設置校
・普通科と職業系専門学科の両方を学べる科目を開設

×

【学校規模】

中～大規模校
・幅広い学びの選択肢を確保するため、多くの学科や科目を開設する高校
・設置学科の一部に特色あるコース等を導入する高校
・特色ある学びに必要な科目を開設する高校

小規模校
・専門的な科目に特化した教育課程の作成等の工夫により、小規模でも運営が可能な高校
※小規模のメリットを最大限に生かす工夫が必要

・様々なタイプの学校・学科の検討（全国募集、国際バカロレア認定校、中高一貫教育校、外国人生徒に係る特別定員枠等）

学科・コースの検討

検討会議における主なご意見

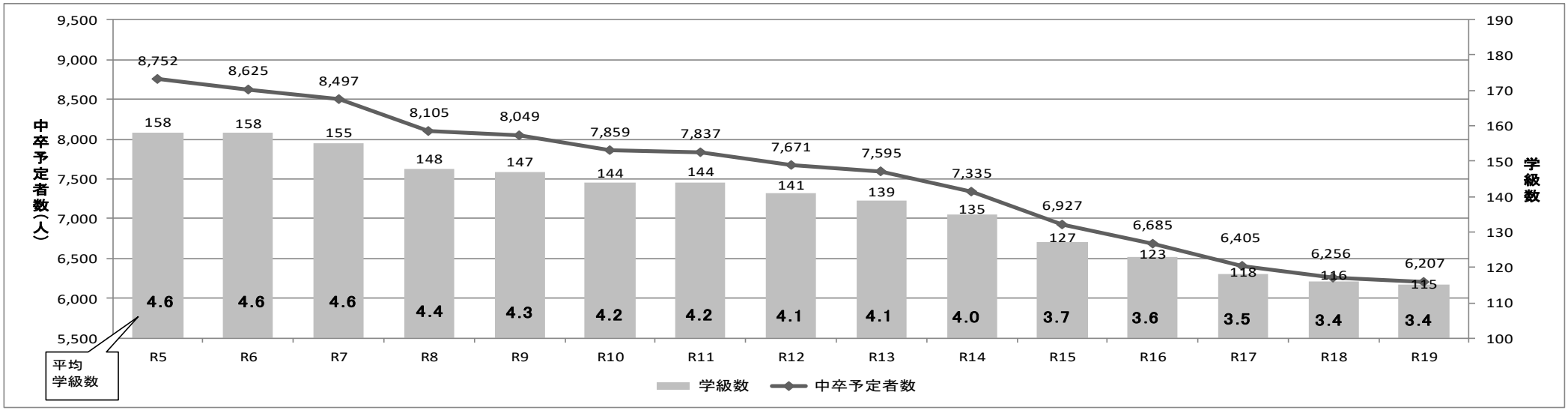
農業科 ・富山県にとっては、農業、水産はとても大切。もう一つの特徴は工業県ということ。こういう分野で全国からうらやましく思われるような高校のあり方をデザインするべき。 ・農業科や水産科では、関連する就職や進学者の割合が低い。「このカリキュラムのままでいいのか」までを含めて検討していかなければならない。	**工業科** ・工業系では、工業デザインなど女性が入ってもらえるようになるとよい。地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことを、県内でできるようにしていくことは人材育成の意味においても価値がある。 ・工業科に細かい、いろいろな科があっても「この先には何が待っているのだろう」とよくわからないところがある。一括募集や学科の名称変更があれば「行ってみようか」という気持ちになるのではないか。
普通系学科 ・デジタル化の進展と社会の変化により、高校教育にデータサイエンスを取り入れる重要性が増している。文系理系に関わらず応用されるデータサイエンスは、生徒たちの分析力や問題解決力を育成する。 ・社会のニーズに鑑みるとデータサイエンスコースやグローバルコースは、まさに生徒が学びたいと思え、高校卒業後の進学や実社会で生かせるもの。しかし、設置する場合は、コースの特色をしっかり考え、ＰＲしていくことも大切。	**商業科・家庭科** ・職業科の中には、進学者が生徒の７割～８割となっている学科もある。普通科の中のコースとして、特色ある教育内容を残していく方策もあるのではないか。 ・職業科でどのような力が身につくのか、入学してみないと分からないということが、子どもたちにとっては不安であり、最初から選ぶことができない生徒が増えている。子どもたちが自分の好きなところで学び、力を伸ばすことができる多様な学科が県全体にバランスよく配置されるとよい。

「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」より
総合学科：全県的な視野に立って、総合学科のある学校の配置バランス、定員設定等の検討
水産科　：中学校卒業予定者数の減少に対応しつつ、生徒、産業界のニーズ等を踏まえた配置バランスや定員設定等の検討
看護科　：県内の高等教育機関において、看護教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討
福祉科　：県内の高等教育機関において、介護福祉教育課程が整備されていることも勘案した定員設定の検討

様々なタイプの学校・学科等の検討

	全国募集	国際バカロレア(IB)認定校	中高一貫教育校	外国人生徒に係る特別入学枠
概要	本県における県外生徒の受入れについては、県立高校入学者選抜において、原則として、「本人及び保護者が本県内に居住している、または近く居住することが確実であること」を志願資格としており、**生徒単独の移住を前提とした受入れは行っていないのが現状。**	国際バカロレア(IB)とは、**課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。**	中高一貫教育は、生徒や保護者が、**これまでの中学校・高等学校に加えて、６年間の中高一貫教育も選択することができるようにする**ことにより、中等教育のより一層の多様化を推進するものとして、平成11年４月から制度化されている。	本県では、平成23年度実施の県立高校入学者選抜より、入国後６年以内の外国人生徒から申請があった場合、**検査問題の漢字にふりがなを付すこととし、日本での生活が短いことで、日本語での受検が困難である生徒に配慮している。外国人生徒に係る特別定員枠については設定していない。**
検討会議における主なご意見	・南砺平高校の郷土芸能部は素晴らしい成績を収めているし、スキー部はオリンピック選手を輩出している。寄宿舎もあるので前向きに検討してほしい。 ・寄宿舎では週末や長期休業期間に対応できないならば下宿という方法もあると思う。	・莫大な人材投資が必要であり、昨今の国際情勢を考えるとグローバル化ばかりが魅力的というわけではない。慎重に議論すべきではないか。 ・専門的な教員や施設設備の充実、多額の予算等を考えると県立高校では設置が難しいのではないか。グローバルコースのようなところで、英会話力を高めながら探究活動に力を入れる方が適しているのではないか。	・中高一貫教育校などで特色を持たせるのはよい。 ・都会ではメリットがあるようだが、富山県では少し事情が違うのではないかと思っていた。しかし、子どもたちの選択肢を広げるためには検討する価値はある。 ・中高一貫教育校にはメリットとデメリットがあると思う。もし、設置するのであれば富山県ならではの魅力が詰まったコンセプトを考えていただきたい。	・高校に行きたいと思う外国籍の生徒には、その機会を保障してほしい。県立でも私立でもよいので、その仕組みを県でつくっていただきたい。 ・外国人生徒を受け入れる場合の教育環境において、特別な教育課程の編成や人員の確保、その他の支援体制の整備などが十分でない限りは、入学した生徒に十分な教育を行うことができないことが課題としてある。

学校数（34校）を維持した場合の平均学級数の見込み



年　　度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
中卒予定者数*1	8, 752	8, 625	8, 497	8, 105	8, 049	7, 859	7, 837	7, 671	7, 595	7, 335	*6, 927*	*6, 685*	*6, 405*	*6, 256*	*6, 207*
学級数*2	158	158	155	148	147	144	144	141	139	135	127	123	118	116	115
前年度比	▲ 5	±0	▲ 3	▲ 7	▲ 1	▲ 3	±0	▲ 3	▲ 2	▲ 4	▲ 8	▲ 4	▲ 5	▲ 2	▲ 1
R5年度比	基準	±0	▲ 3	▲ 10	▲ 11	▲ 14	▲ 14	▲ 17	▲ 19	▲ 23	▲ 31	▲ 35	▲ 40	▲ 42	▲ 43
平均学級数	4. 6	4. 6	4. 6	4. 4	4. 3	4. 2	4. 2	4. 1	4. 1	4. 0	3. 7	3. 6	3. 5	3. 4	3. 4
R5年度の在籍学年	高１	中３	中２	中１	小６	小５	小４	小３	小２	小１	５歳	４歳	３歳	２歳	１歳

*1　当該年度の学級数の算定基礎となる、前年度の中学校卒業予定者数を記載。
R6～R14は学校基本調査（R5. 5. 1）の在籍者数、*R15～R19は人口移動調査（R4. 10. 1）に基づく推定値。*

*2　中学校卒業予定者数をもとに、法律に基づく１学級40人を前提として、また、R5年度以降の公私比率を70. 8%と仮定して、学級増減数を算定し、令和５年度を基準として算出。

現状（平均4.6学級）を維持する場合、
R14年度までに4～5校、R19年度までに9～10校
の減が必要となる。

県立高校再編の必要性

検討会議における主なご意見

・平均的にダウンサイズしていくだけでは、子どもたちの幸せの総量も減る。それぞれの高校の魅力が高まり、子どもたちの幸せの総量が膨らむような再編であればよい。

・教育目的や教育目標について再度確認し、それぞれを達成するための効果的な教育方法にはどのようなものがあるか、また、それぞれの教育方法や扱う教材に関する適正規模のクラスについて検討できればよい。

・報告書に「高校生ファーストで考えるべきではないか」という意見が記されていたが、そういうことを念頭に置きながら、今後10年、20年先の富山県の教育がどうあればよいかを議論していきたい。

※第４回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿（素案）」より抜粋

令和２年度の県立高校再編は令和８年度を見通して実施され、生徒の学習環境改善において充実が図られた。しかしながら、「県立高校再編の基本方針」（H29.9.7）において、別途、対応を協議することとされた**令和９年度以降の中学校卒業予定者数の推移を踏まえると、現在の学校数を維持した場合、多くの県立高校が小規模校となることが予測される**。また、令和２年度の再編統合検討時の想定を超える、急激な中学校卒業予定者数の減少が推定されることから、高校再編については、これまで以上に長期的な展望に立つことも必要である。

再編に関する基準（例）

※第３回検討会議資料より抜粋

1	**令和２年度の基準** 学校規模が、１学年４学級未満又は160人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、１学年３学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。
2	**基準を引き下げる** 学校規模が、１学年３学級以下又は120人以下の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、１学年３学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。
3	**基準を引き上げる** 学校規模が、１学年４学級（５学級）以下又は160人（200人）以下の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、１学年３学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校から検討する。 なお、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、対象としない。
4	**学校規模の基準を設定しない（県立高校配置の方向性のみ）** ・生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができることを目指し、様々な学科構成や学校規模の学校をバランスよく配置する。 ・学校規模に関する基準は設定しない。
5	**志願状況や欠員状況** （例）入学志願者数が３年連続定員に満たない高校で、今後も増加の見込みがない場合再編整備の対象とする。 （例）第１学年の生徒数が２年続けて一定の人数を下回った場合は再編整備の対象とし、２年連続でさらに少ない一定の人数を下回った場合は翌年度の生徒募集を停止する。

検討会議におけるご意見

第３回検討会議において、再編に関する基準として５つの例などを参考にご検討いただいたところ、「１学年４学級未満を検討対象とするこれまでの基準がよい」といったご意見と、「今後の大幅な生徒数の減少を想定し、（４学級以下等に）基準を引き上げるべき」といったご意見が多く、ほぼ同数であった。

また、「基準を引き下げて３学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。」といったご意見もあった。

（主なご意見）

・規模だけでなく、学科やコースなど県全体のバランスを見極め学校を配置することが必要。令和２年度の基準を前提とし、必要があれば修正を加えるような捉え方で進めていけばよい。また、これまで通り規模の小さい学校から検討することが必要だろう。

・これまで様々議論され、令和２年度の基準が設定されてきた。教員数の確保や生徒が部活動などで仲間たちとともに過ごしたいという気持ちなどを考えての基準であったと思うので、この基準がよい。

・これまで通りの基準または、引き上げがよいと思う。総合的な探究の時間では、生徒が自ら課題を見つけて探究することが求められている。このような多様な学びに応えていくためには、それなりの教員や学校規模が必要。

・教育の水準を考えると４学級は最低でも必要。基準を引き上げて幅広く検討する方がよい。その中で、小さい学校を全て統合するのではなく、地域の実情に応じた再編も必要になってくる。

・10年後、15年後を想定して検討する必要がある。基準を引き上げることで志願状況や欠員状況も十分考慮できる。そういう柔軟性に富んだ考え方を持つべき。

・基準を引き下げ３学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。数の規模で全て判断するというのは違うと思う。

・基準を設けるのはどれも悩ましいが、志願状況や欠員状況を基準にすることについては慎重な検討が必要ではないか。定員割れが起こっていても、その学校・学科がなくなると、本当に困ることが起きてくるのではないかと思う。

再編検討の方向性

※第４回県立高校教育振興検討会議資料「県立高校の目指す姿（素案）」より抜粋

○県立高校の目指す姿の実現に向け、再編統合や学科改編等により、魅力と活力ある学校づくりを推進するため、学びの質を向上し、教育体制を整備できるよう検討を進める。

　また、生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための検討を進める。

○現在の学校数を維持した場合、今後、多くの県立高校が小規模校となることが予測されることを踏まえ、学校規模が、１学年４学級未満又は160人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。

　ただし、全県的な視野から特色ある教育活動の展開が期待できるなど特別な事情（職業科単独校、地理的な制約）がある場合は、検討の対象としないことも考えられる。

　なお、令和15年度以降の中学校卒業予定者数の推定値の急激な減少を鑑みると、さらに長期的な展望に立って様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置するための高校再編を検討するには、学校規模が、１学年４学級以下又は160人以下の規模の学校についても再編統合の検討の対象とするなど、検討の範囲を広げることも考えられる。

検討会議における主なご意見

・今までに経験のないほど子どもの数が圧倒的に減っていく中で県立高校の再編を議論するには、しっかりしたビジョンが必要。今回示されたビジョンは、子どもを中心とした視点に立つということが明確になっており、よい方向になってきたのではないか。

・小規模校、大規模校それぞれの良さがある。これが、子どもたちの選択肢になっていくとよい。

・再編検討の方向性に示された再編統合や学科改編等を一体的に検討していくという原案は、これまで議論を重ねてきたことが網羅されている。小規模校、中規模校、大規模校の役割と併せて様々なタイプの学校等についても検討を深めていけるとよい。

・小規模、中規模、大規模が偏りなく、子どもたちが通いやすいものになるとよい。

・少子化が進む中、高校再編は必要だと思うが、地域において子どもたちの教育環境を確保し、子どもたちが本当に自分でやりたいことができる学校へ行けるようにしてほしい。

・生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質を向上させるためには、１校当たりの教員数と生徒数の確保が重要。再編検討の方向性は、現行の教員配置等の規則制度において、生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質の向上を図ることを目指したものといえる。

（参考）令和６年度　県立高校（全日制）の学校規模（第１学年募集定員）　（平均4.6学級）

学級数　（学校数）	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区
８学級　(1)		富山工業 （工8：320人）		
７学級　(2)			高岡工芸 （工7：270人）	南砺福野 （普4国1農1福1：250人）
６学級　(7)		富山 （普4探2：240人）	高岡 （普4探2：240人）	
		富山中部 （普4探2：240人）		
		富山北部 （普3工2商1：240人）		
		富山商業 （商6：240人）		
		富山東 （普6：240人）		
		呉羽 （普6：230人）		
５学級　(7)	桜井 （普3工1家1：200人）	富山南 （普5：200人）	高岡商業 （商5：200人）	
	滑川 （普2工1商1水1：200人）	富山いずみ （総4看1：190人）	氷見 （普2農水1商1家1：200人）	
	入善 （普4農1：170人）			
４学級　(10)	魚津 （普4：160人）	八尾 （普4：160人）	新湊 （普3商1：160人）	砺波 （普4：160人）
	上市 （総4：150人）	富山西 （普4：160人）	高岡南 （普4：160人）	石動 （普3商1：160人）
			小杉 （総4：150人）	砺波工業 （工4：140人）
３学級　(6)	雄山 （普2家1：120人）	中央農業 （農3：76人）	大門 （普3：120人）	
	魚津工業 （工3：105人）		福岡 （普3：120人）	
			伏木 （国3：105人）	
２学級　(0)				
１学級　(1)				南砺平 （普1：30人）

（参考）第１回検討会議における主なご意見等

議題	視点	ご意見要旨
本会議の進め方	検討の進め方	・県立高校がこれ以上少なくなっていくと通いにくい生徒も出てくる可能性があるため、慎重に議論しなければならない。
		・これまでたくさんのアンケートをとって分析しているので、生徒が何を求めているのかという観点から、多くの情報を使って検討ができればと思っている。
		・平均的にダウンサイズしていくだけでは、子どもたちの幸せの総量も減る。それぞれの高校の魅力が高まり、子どもたちの幸せの総量が膨らむような再編であればよい。
		・中卒予定者数の推移を見ると、私が高校生だった頃がピークになっており、自分の経験が必ずしも、現在に適用できるものではないと思っている。よりよい学校環境を構築できるように一緒に考えていきたい。
		・報告書に書かれている危機意識からすると、これからのビジョンばかり話をしていても時間がないと感じる。いかに行動を起こしていくか、今はそういう段階にきているのではないか。
		・数合わせではなく、各高校のあり方や特色、スクール・ポリシー、職業教育を含めた役割といったことを踏まえた上で、適正なあり方や規模の両方を幅広い視点から、深く洞察していく必要がある。
	学校規模・基準	・教育目的や教育目標について再度確認し、それを達成するための効果的な教育方法にはどのようなものがあるか、また、それぞれの教育方法や扱う教材に関する適正規模のクラスについて検討できればよい。
		・現在、勤務する中学校が３学級となり、部活動の運営上も大変課題が多い。少なくとも４学級は必要ではないかと実感している。
	県立高校のあり方	・小学校での勤務経験から、小中学校におけるキャリア教育は本当に大切なことだと思った。小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学へという進路があるが、自分の進路を実現できる受け皿が大切。どういう学科が大切なのか聞かせてほしい。
		・報告書に「高校生ファーストで考えるべきではないか」という意見が記されていたが、そういうことを念頭に置きながら、今後10年、20年先の富山県の教育がどうあればよいかを議論していきたい。
		・子ども食堂に来る子どもが、同じ年ごろの子どもの姿を見て学習していく光景がある。教えることは必要だが、見て経験するということが大変重要だと思う。
		・自分の夢に向かって力強く、たくましく成長していける学生生活、そして社会に出てからコミュニケーションを上手にとっていけるように、学生生活を通して養っていける教育をしていただきたい。
		・コロナ禍で得たものの一つにオンライン授業がある。せっかく得たのだから学校を越えて利用するといった検討などもできればよい。

（参考）第２回検討会議における主なご意見等

議題	視点	ご意見要旨
県立高校再編に関する学校規模や基準など	検討の進め方	・学校の規模・基準も大切だが、それを検討していく上で、学科やコースの見直しと併せて検討する必要がある。
		・富山県は、県立高校と私立高校の割合を定めた上で募集定員を決めているので、他県のように定員割れを基準とするような一律の基準は難しいだろう。一つの基準で全て決めるのではなく、いろいろな観点を持つ必要がある。
		・学校の先生方、生徒や保護者、経済界や学術界のそれぞれの立場の意見のバランスをとらなければならない。人口減少という抗えない事実がある中で、どう三方よしを高めていくかということが方針ではないか。
	学校規模・基準	・学級数が減ると、教員数が減る。質の高い教育を実施するためには、１学年あたり５～６学級は必要ではないか。
		・生徒の学習環境の維持や部活動の活気という観点から、４～５学級規模が望ましい。ただし、地理的な条件なども考慮する必要がある。
		・高校教育の質のレベルを下げるわけにはいかない。そのためには、学校規模、生徒数あるいは学級数が大変重要であり、それが低下することは極力避けるべき。
		・現在、学級規模は1学級40人として計算されている。いつ法律が変わるかわからないが、現状は変わることはないと思うので、前回と同じような基準でよい。ただし、登校にかかる時間等は考慮する必要がある。
		・４学級くらいが一つの目安で、地域の実情や校風によって、３学級、２学級があるのかと思う。
		・生徒が30%減るということに改めて危機感を覚えている。全国や県内の状況を見ると４学級くらいが妥当なのかと思う。
		・４～５学級が望ましいというのもよくわかるが、いろいろな地域の事情なども考えてほしい。
		・現在の再編基準を引き下げるべき。通学の困難さという地域の特性に配慮すべき。
	県立高校のあり方	・小規模校では、経験が少なくなることがある。長崎県のキャンパス校のように、小規模校が大規模校とつながる方法もあるのではないか。
		・自分が選んだ学校で何ができるか、将来どんな進路を選択できるかが大切。高校では、そういった指導をしてもらいたい。

議題	視点	ご意見要旨
学科・コースの見直し	検討の進め方	・職業系の学科において、ねらいとする知識や技能、社会から求められている能力や技術といった力も変化してきているのではないか。今の形にあったような学科の組み替えがあってもよい。
		・「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」では、職業科の学科の見直しに関して、「生徒の希望や産業界のニーズとバランス等を考える」となっている。これはまさしく社会の変化に対応して考えなければならないということだと思うので、この形で進められるとよい。
	県立高校のあり方	・スクール・ポリシーなど、県立高校のそれぞれの方針がますます大事になってくる。規模や大学進学率の競争ではなく、理念やビジョンの競争で高校を選ぶことが大事。
		・職業科と普通科が一つの学校になり、共通の授業科目をオープン化し、お互いに乗り入れながらやっていくと特色も出てくるのではないか。そういった高校をつくっていくことも一つではないか。
		・中学生の時に、誇りを持てる学科であり、誇りを持てる学習だということを理解してもらえる教育が必要だろう。それが高校を選ぶ材料にもなる。
	各学科	・富山県にとっては、農業、水産はとても大切。もう一つの特徴は工業県ということ。こういう分野で全国からうらやましく思われるような高校のあり方をデザインするべき。一つの提案として、学科名、学校名まで変えてはどうか。
		・中学校３年生が、半日ほど農業高校の取組みを体験することがあった。そういった中高連携の取組みも進め、高校のよさを中学生にアピールしてもらい、進路選択の一つになるとよい。
		・中学校の先生方が進路指導をしていく中で、例えば、工業科を志望している生徒には、工業科の中のどの学科にするかということになる。視察報告にあったように、入る時は大枠で入り、そのあとにコースを選択するような高校があれば、進路指導面からもよいし、子どもたちの選択肢も広がる。
		・親の立場としては、「とりあえず普通科に」とアドバイスしてしまう気持ちもある。工業系も特色をつけるのであれば、必修化された「情報」が特色ではないか。県立大学では、データサイエンスに力を入れているので、高大連携も図れて非常に良い特色が出ると思う。
		・志願状況を見ると、総合学科が毎年安定した状況になっている。この人気のある要因を分析していくことも必要になってくる。

（参考）第３回検討会議における主なご意見等

議題	視点	ご意見要旨
県立高校再編に関する学校規模や基準など	学校規模・基準	・生徒が学びたい、学んでよかったと思えるためには一定水準の教育の質が必要。学校関係者や全国調査の結果では、４から８学級がよいとされている。現在の基準が適用されるのがよい。例外規定もあり弾力的に運用できるようになっている。
		・規模だけでなく、学科やコースなど県全体のバランスを見極め学校を配置することが必要。令和２年度の基準を前提とし、必要があれば修正を加えるような捉え方で進めていけばよい。また、これまで通り規模の小さい学校から検討することが必要だろう。
		・これまで様々議論され、令和２年度の基準が設定されてきた。教員数の確保や生徒が部活動などで仲間たちとともに過ごしたいという気持ちなどを考えての基準であったと思うので、この基準がよい。
		・これまで通りの基準または、引き上げかと思う。総合的な探究の時間では、生徒が自ら課題を見つけて探究することが求められている。このような多様な学びに応えていくためには、それなりの教員や学校規模が必要。
		・学校で過ごす時間、同級生や先輩後輩と過ごす時間はとても大切であり、そのためには４学級以上が必要ではないか。学校の歴史や地域性といった話もあるが、数で明確に示すことは大切。規模の小さい学校からというのは、誰もが異を唱えない点だろう。
		・教育の水準を考えると４学級は最低でも必要。基準を引き上げて幅広く検討する方がよい。その中で、小さい学校を全て統合するのではなく、地域の実情に応じた再編も必要になってくる。
		・基準を引き上げる必要がある。生徒にとって質の高い教育には、教員の数が必要。また、ある程度の規模のクラス数があることによって部活動等を含め効果がある。ある程度平等性を確保するためには、規模を少し大きめに取っておくのが近道だろう。
		・10年後、15年後を想定して検討する必要がある。基準を引き上げることで志願状況や欠員状況も十分考慮できる。そういう柔軟性に富んだ考え方を持つべき。
		・基準を引き上げれば、対象校が限定的にならずに幅広い中から決まるのでよい。
		・基準を引き下げ３学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。数の規模で全て判断するというのは違うと思う。
		・基準を設けるのはどれも悩ましいが、志願状況や欠員状況を基準にすることについては慎重な検討が必要ではないか。定員割れが起こっていても、その学校・学科がなくなると、本当に困ることが起きてくるのではないかと思う。

議題	視点	ご意見要旨
学科・コースの見直し	県立高校のあり方	・中学校、高校の先生方は、生徒が進路選択する時に「この学校のこの学科に行けば、社会とどう繋がることができるか」という社会との接点を伝えなくてはならない。ビジョンが見えれば子どもたちは目を輝かせるだろう。
	各学科	・農業科や水産科では、関連する就職や進学者の割合が低い。「このカリキュラムのままでいいのか」までを含めて検討していかなければならない。
		・工業系では、工業デザインなど女性が入ってもらえるようになるとよい。地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことを、県内でできるようにしていくことは人材育成の意味においても価値がある。また、食料自給率をどう高めるかという大きな課題がある。重要な産業を伸ばしていくという意味で農業系に力を入れ、先進的な技術を学べるようにする必要がある。
		・工業科に細かい、いろいろな科があっても「この先には何が待っているのだろう」とよくわからないところがある。一括募集や学科の名称変更があれば「行ってみようか」という気持ちになるのではないか。
		・情報系のことを網羅する基礎学習ができていないと、卒業後に様々な端末に対応できる人材が育たない。情報系の普通科や工業科の中の情報系が増えるとよい。
	普職割合	・高校における職業科の役割は変わってきているのではないか。そうであれば、定員の一部を普通科に変更するなど、思い切ったことも必要ではないか。
		・普通科の割合が低いので、普通科の増加や、職業科の減少をすることで、その割合を正すことが必要。ただし、職業科については、動物を扱う農業科が県内では中央農業高校だけであるというような強みを生かしていく必要がある。単に職業科を削減するのではなく、総合学科や普通科コースで学科の内容をつなげることも大切。
様々なタイプの学校・学科等	全国募集	・南砺平高校の郷土芸能部は素晴らしい成績を収めているし、スキー部はオリンピック選手を輩出している。寄宿舎もあるので前向きに検討してほしい。
		・郷土芸能部の活動を拝見したが、本当にプロフェッショナルで素晴らしかった。情報発信によって全国の生徒が見に来てくれるといった可能性があればよい。
		・寄宿舎では週末や長期休業期間に対応できないならば下宿という方法もあると思う。
	国際バカロレア	・莫大な人材投資が必要であり、昨今の国際情勢を考えるとグローバル化ばかりが魅力的というわけではない。慎重に議論すべきではないか。
		・導入することで制約条件が多くなるのではないか。学校教育の中で、他国の文化に触れる機会を増やせばよい。語学に加え、世界史や地理など教科横断的な授業を行い、富山県をグローバル化教育の先進県と位置付けられるような特色ある取組みに挑戦してはどうか。
		・専門的な教員や施設設備の充実、多額の予算等を考えると県立高校では設置が難しいのではないか。グローバルコースのようなところで、英会話力を高めながら探究活動に力を入れる方が適しているのではないか。

（参考）第４回検討会議における主なご意見等

議題	視点	ご意見要旨
県立高校再編に関する学校規模や基準など	県立高校の目指す姿（素案）	・今までに経験のないほど子どもの数が圧倒的に減っていく中で県立高校の再編を議論するには、しっかりしたビジョンが必要。今回示されたビジョンは、子どもを中心とした視点に立つということが明確になっており、よい方向になってきたのではないか。
		・小規模校、大規模校それぞれの良さがある。これが、子どもたちの選択肢になっていくとよい。
		・再編検討の方向性に示された再編統合や学科改編等を一体的に検討していくという原案は、これまで議論を重ねてきたことが網羅されている。小規模校、中規模校、大規模校の役割と併せて様々なタイプの学校等についても検討を深めていけるとよい。
		・小規模、中規模、大規模が偏りなく、子どもたちが通いやすいものになるとよい。
		・少子化が進む中、高校再編は必要だと思うが、地域において子どもたちの教育環境を確保し、子どもたちが本当に自分でやりたいことができる学校へ行けるようにしてほしい。
		・生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質を向上させるためには、１校当たりの教員数と生徒数の確保が重要。再編検討の方向性は、現行の教員配置等の規則制度において、生徒の幅広い選択肢を確保した上で、学びの質の向上を図ることを目指したものといえる。
学科・コースの見直し	県立高校のあり方	・地域課題に関するプロジェクト学習において、子どもたちは学習を経るごとにテーマを見つけ解決につなげる学びを深めている。より色々な学びに対応できるような形になればよいが、教員数や教員の多様な専門性が必要になるなどの課題もある。
		・発達するデジタル技術の活用により、学校間で連携し、授業の同時展開や、グループディスカッションをして何かをつくりあげていくようなプログラムができるのではないか。
		・職業科でどのような力が身につくのか、入学してみないと分からないということが、子どもたちにとっては不安であり、最初から選ぶことができない生徒が増えている。子どもたちが自分の好きなところで学び、力を伸ばすことができる多様な学科が県全体にバランスよく配置されるとよい。
		・今の子どもたちは、決められた時間の中で早急に、進路を考え選択しているように感じた。もう少しゆっくりと考える時間を与えることはできないか。
	魅力発信	・中学生のうちから方向性を持って進路選択をすることが大切。今後、さらに高校の特色が出てくるならば、中学生にしっかりと伝え、進路選択につなげていくことが必要。
		・高校生と地域や企業等との連携活動は、中学生やその保護者が高校生の活動に直に触れるよい機会。各市町村に色々なイベントがあるが、各地区の高校とうまく連携できれば、魅力発信につながるのではないか。小中高が連携し、市町村の地域企業も連携したような実のある活動を組み込んでいくことも一つの手段。

議題	視点	ご意見要旨
学科・コースの見直し	各学科	・データサイエンス系の学科は配置、強化されていくべき。海外では、ＩＣＴという産業分類がなく、当たり前のこととして認識されている。どの学科でもＩＣＴやデータサイエンスといったものを履修できるような環境をつくっていくべき。
		・デジタル化の進展と社会の変化により、高校教育にデータサイエンスを取り入れる重要性が増している。文系理系に関わらず応用されるデータサイエンスは、生徒たちの分析力や問題解決力を育成する。
		・社会のニーズに鑑みるとデータサイエンスコースやグローバルコースは、まさに生徒が学びたいと思え、高校卒業後の進学や実社会で生かせるもの。しかし、設置する場合は、コースの特色をしっかり考え、ＰＲしていくことも大切。また、職業科の中で、普通科コースへの変更が可能かどうかという視点での検討も必要。
		・職業科の中には、進学者が生徒の７割～８割となっている学科もある。普通科の中のコースとして、特色ある教育内容を残していく方策もあるのではないか。
様々なタイプの学校・学科等	中高一貫教育校	・中高一貫教育校などで特色を持たせるのはよい。
		・都会ではメリットがあるようだが、富山県では少し事情が違うのではないかと思っていた。しかし、子どもたちの選択肢を広げるためには検討する価値はある。
		・中高一貫教育校にはメリットとデメリットがあると思う。もし、設置するのであれば富山県ならではの魅力が詰まったコンセプトを考えていただきたい。
	外国人生徒に係る特別入学枠	・高校に行きたいと思う外国籍の生徒には、その機会を保障してほしい。県立でも私立でもよいので、その仕組みを県でつくっていただきたい。
		・富山県として外国籍にルーツを持つ生徒をどう育てるかの対応は必要。私学では受入れの限界があり、人的、財政的な支援を求めたい。その支援がないのであれば、公立に枠を設けるべき。
		・外国人生徒を受け入れる場合の教育環境において、特別な教育課程の編成や人員の確保、その他の支援体制の整備などが十分でない限りは、入学した生徒に十分な教育を行うことができないことが課題としてある。
		・母語で対応しすぎると、日本語能力の向上は期待できない。特別な対応を過度に行うのではなく、丁寧ながらも効果的な方法での支援が望ましい。